

平成 27 年度第 3 回安芸高田市総合教育会議の主な意見【概要】

●確かな学力の向上（県内 1 番を目指して）

（第 1 回）

- 行政運営上、教育は欠かすことのできない重要な分野。今後益々レベルアップは大事。
- その意味で学習補助員は非常に有効な制度の一つ。
- 県内 1 番を目指し、目標に向かって努力をするというその経過が大事。
- 安芸高田市を魅力ある街にするためには、教育が非常に大事。一人一人の子どもたちを見ていくと、色々な課題を抱えている。指導者は子どもたちの日頃の生活に目を向けながら支援をしているが、十分でない面もある。母親や父親の支援なども含め、今後なお一層市長部局としっかりと手を組んでやっていくことが必要。
- 幼少期、特に小学校の時期は、学力のみならず様々な運動能力を幅広く身に付けさせていくことに、今は注力すべきではないか。
- 教育はソフト面ハード面双方のバランスが必要。例えば I C T 教育など、進めるとなればハード的な整備は欠かせない。

（第 2 回）

- 学力向上については、「できる子どもを伸ばす」ということだけで達成できるものではない。同時に「底上げ」をしていく必要がある。そのため、学習補助員の制度を、今以上に有効に活用することを検討する必要があるのではないか。
- 今の授業で学力を付けさせるには、同時に「徳育」あるいは「体力」等についてもバランス良く行わないと伸びていかない。
- 豊かな心の育成という面では、やさしく、また温かく見守っている地域の中で育った子どもは自己肯定感も強く、学力も伸びていく。その意味では、家庭や地域のつながりを、もっと深めていくことが必要。
- 勉強の楽しさを学校の中で教えていただければありがたい。また、生活面での指導を親の教育も含めた中でやっていただくと、なおありがたい。
- 本市には教員の O B が多い。どうにか「昔取った杵柄」を活かせる方法はないものか。

●故郷に対する自信と誇り

(第1回)

- 将来的に、その子どもの寄って立つ土台や基礎は、この安芸高田だという「故郷を想い、夢と志に向けて共に学び続ける人づくり」をトータルでやっていくことが必要。

(第2回)

- 故郷に対する自信と誇りについて、学校規模適正化に関し、住民はトータルをして将来のことを考えている。子供たちが故郷を思うとき、さびれた故郷はなかなか寂しいものがあるので、閉校後の跡地利用等についても合わせて考えていくべき。

(第3回)

- 基本理念「故郷を想い、夢と志に向けてともに学び続ける人づくり」は、ふるさとを思いながら、子供を育てていくというこれからの安芸高田市の教育方針を表現していて非常良いと思う。

●魅力ある安芸高田市の創造（オール安芸高田）

(第1回)

- 中学校又は高校の他市への進学を何とか食い止める、そのことは必要なこと。安芸高田市内の高校との連携は今後益々必要。
- エゴをなくし、「オール安芸高田」で教育を進めることが必要。そのため、この度の副読本は小中学校の児童生徒に安芸高田市の歴史を知ってもらうことはもとより、市民の皆さんにも是非見ていただきたい。
- 歴史、文化、スポーツが安芸高田市の活性化の切り口になってきている。今後さらに教育委員会と市長部局と連携を密にやっていくことが必要。

(第2回)

- 学力のついた子ども達が市外の中学校又は高校へ進学しているという状況がある。この課題については、中学校の進路指導や保護者への啓発、あるいは安芸高田市内の県立高校への連携強化によって、市内の県立高校への進学を少しでも高めるといった具体的な取組みが必要。
- 社会見学等について、現在のように広島市内に行き、新しい場所を実際目で見たり、物に触れたりすることも大事だが、安芸高田市内への社会見学等も実施して、自分が住んでいる町から他町へ行って安芸高田市全体について学べるシステムや仕組み作りが必要。
- 神楽などの安芸高田市全体でみれば貴重な文化や文化芸能などを体系的にまとめられないか。市長部局との連携や協調が必要ではないか。
- 地域にある宝や財産が、その地域の方々が自分たちで守っていかなければな

らない宝や財産だと思ってもらえるような取組みや流れを社会教育の中で作りたいと考えている。

●教育環境

(第2回)

- 安芸高田に生まれ育った若者をUターンでどう迎えていくかというのは課題の一つ。例えば、他の市町にないような教育施設（校舎や施設設備など）を整えていくことは、とりわけ小中学校の子育て世代の保護者の関心事。今後、もっと大胆にハード面の教育環境を充実させていくということについても議論をしてみたい。

●多文化共生・若者定住

(第2回)

- 今のグローバル化の時代、外国人やひとり親家庭など子どものハンディーに対する教育の在り方について議論や検討が必要なのではないか。このことが将来的には定住につながり、安芸高田市を助けることにもなる。
- 外国の方に安芸高田市へ定住してもらおうと思ったら、例えば児童生徒の放課後対策等のあり方や、今現在、何が課題になっているか、などについて、具体的にきちんと把握する必要がある。
- 若者のU I ターン等には、「教育」と「仕事」は欠かすことができない。さらに「文化施設」も大事な要素の一つ。
- 定住を促進するには、教育のレベルや質を高めていく必要がある。その質の高め方について検討する必要があるのではないか。

(第3回)

- 多文化共生社会の推進において、地域や学校で外国籍の市民を受け入れることとは、文化の違いを理解しお互いを認め合うことだと思う。その意味において、教育が大きな役割を担っているという感想を持っている。
- 家庭環境等によって生じる家庭学習のハンディーを土日の学習補助でどうにか埋めることができないか。

●社会教育・生涯学習

(第3回)

- 学校教育については非常に意識して記載されている一方で、社会教育・生涯学習についてのアクセントもいるんじゃないか。
- 第2次教育振興基本計画の中には生涯学習活動という項目もある。本大綱の中に「生涯学習」という文言が必要なのかもしれない。

●その他

..(第3回)..

- これからのまちづくりは、行政に頼る、あるいは学校現場でいうと教育委員会に頼るということではなく、自分達でできる事は自分達でやっていく、これが1つの大きなポイントになる。
- 大綱策定後、具体的な施策の推進にあたっては、教育委員会のみならず市長部局の関係課とも十分連携を取り、計画的に進めていく必要がある。特に、多文化共生の推進については関係機関・関係団体と一緒に進めていくことを考えなければいけない。